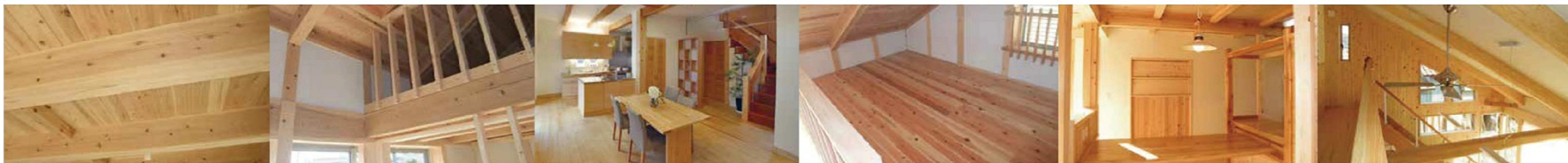


意見交換

テーマ：なぜ、県産木材がいいのか？
どうしたら使われるか？

テーマ なぜ、県産木材がいいのか？どうしたら使われるのか？



なぜ、長野県産木材がいいのか？

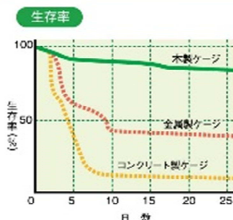
家が長持ちします「愛着のある家づくり」

何十年も地元長野県の気候で育ち、土地の気温や湿度、天候に適した木材に育っているのが長野の気候になじんで、輸入木材よりも家が長持ちします。

健康で快適に暮らせませす「人に優しいいえづくり」

気候風土に適した県産材を使うことで、家族みんなが健康に過ごせる住宅を提供します。

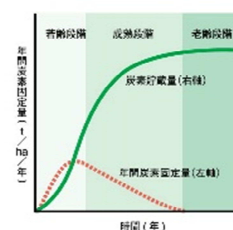
特別養護老人ホームでは木材が沢山使われている施設の方がインフルエンザやけが、不眠などの発生率が低いという調査結果がでました。高齢化社会では、人に優しい木の空間で暮らすことが、健康で長生きの秘訣かも知れません。



素材の異なるケージで飼育したマウスの生存率
実験では、木でできた飼育箱で飼ったマウスの方が、金属やコンクリートの飼育箱で飼ったマウスより長生きできるという結果がでています。

地球環境に優しい「温暖化防止に役立つ家づくり」

木は、住宅に木材として利用された後も「炭素」を貯蔵し続けるので、その貯蔵している「炭素」に匹敵する二酸化炭素を空気中から減らす効果が期待できます。つまり、住宅に木材を使用することは、町の中に森林を造成するのと同じ効果があるのです。



天然林の成長段階に応じた年間炭素固定量と炭素貯蔵量のモデル
木材は住宅として使われても、炭素を蓄え続けます。一般的な住宅では約6tもの炭素が蓄えられています。全住宅が蓄えている炭素の総量は、日本全ての森林が蓄えている炭素量の約18%に相当すると試算されています。

地域環境に優しい「森林資源の再生に役立つ家づくり」

県産木材を使わないと、森林整備が進まなかったり、間伐材が使われることなく捨てられることになり、結果として山や森が荒れてしまいます。県産木材が積極的に使われることによって森が元気に成長し、再生可能な資源として力を発揮してくれるのです。



地域の木材を使用することの地域貢献度について

【地域工務店による地域木造住宅の地域貢献度調査】

信州木材認証製品センターでは、国土交通省の補助事業(平成22年度地域木造住宅市場活性化推進事業)の採択を受け、地域木造住宅産業がいかしたら活性化できるか、その糸口を探る「地域工務店が造る家の地域貢献度調査」を実施し報告書にまとめました。

本調査では、

①地域工務店が造る県産材住宅、②地域工務店が造る非県産材住宅、③ハウスメーカー住宅の3タイプ別に、地域(県内)で使われるお金の割合等を調査して、地域工務店が造る家の社会的な意義を考察しました。

その結果、住宅づくりの違いによる地域で使われるお金は、サンプル数は少ないですが、

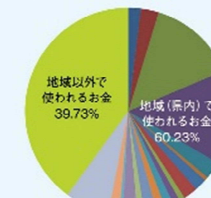
- ①地域工務店が造る県産材住宅が約60%
- ②地域工務店が造る非県産材住宅が約45%
- ③ハウスメーカー住宅が約35%の結果が得られました。

2,000万円の住宅新築なら、地域に落ちるお金は、

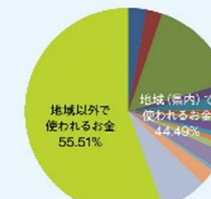
- ①地域工務店が造る県産材住宅だと1,200万円
- ②地域工務店が造る非県産材住宅だと900万円
- ③ハウスメーカー住宅だと600万円

県産材を使用することにより、地域で使われるお金は2倍となる結果になりました。

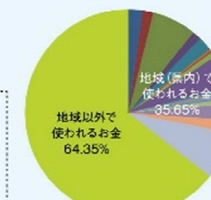
◎右グラフ 地域(県内)業者の内訳



①地域工務店が造る県産材住宅



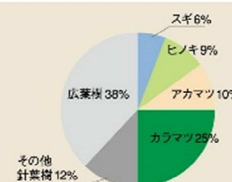
②地域工務店が造る非県産材住宅



③ハウスメーカー住宅

「長野県は全国3位の森林県」

長野県の森林面積は106万ha。全国でも北海道、岩手県に次ぐ森林県です。資源としては針葉樹が62%、広葉樹が38%。樹種ではカラマツが25%と最大を占め、カラマツ人工林は北海道に次ぐ面積を誇ります。戦後の積極的な造林の結果、森林資源は年々増加しています。



■長野県の概要

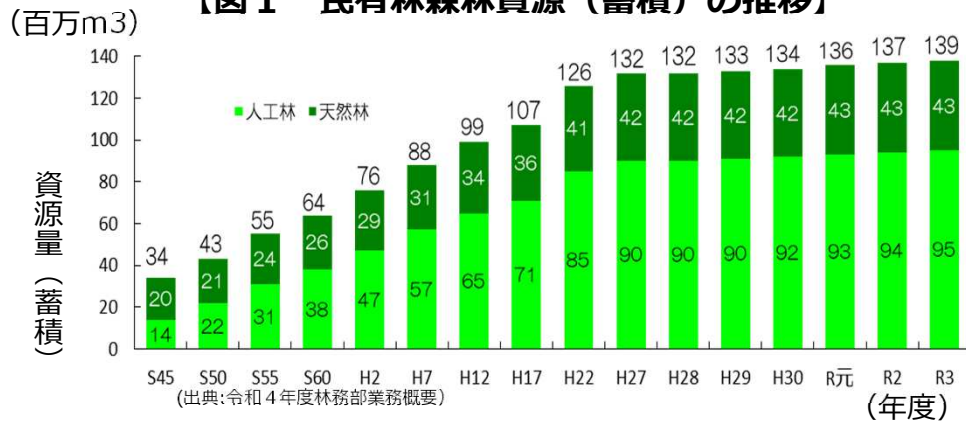
地域面積	1,358,522ha
森林面積	1,059,037ha
森林率	78%
人工林面積	442,310ha
人工林率	42%

テーマ なぜ、県産木材がいいのか？どうしたら使われるのか？

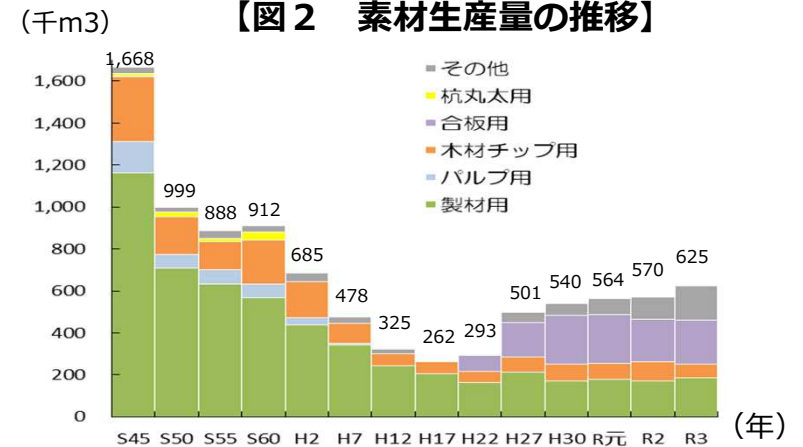
長野県の森林の現状

- ①本県は全国有数の森林県であり人工林を中心に森林資源の蓄積が増加しているが、木材生産量は低迷。
(森林面積：全国第3位、森林蓄積：第4位、カラマツ面積：全国第2位、木材生産量：全国第15位)
- ②本県の人工林の約8割が50年以上となり他県と比べても高齢級化が進んでいる中、「伐って、使って、植える」持続可能な森林経営サイクルを構築することが必要。

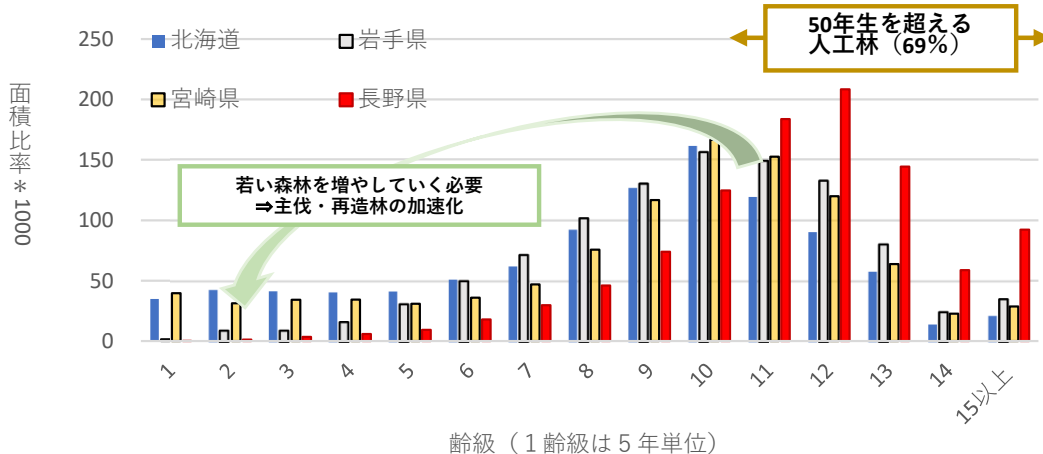
【図1 私有林森林資源（蓄積）の推移】



【図2 素材生産量の推移】



【図3 私有林人工林の例級構成の他県との比較】



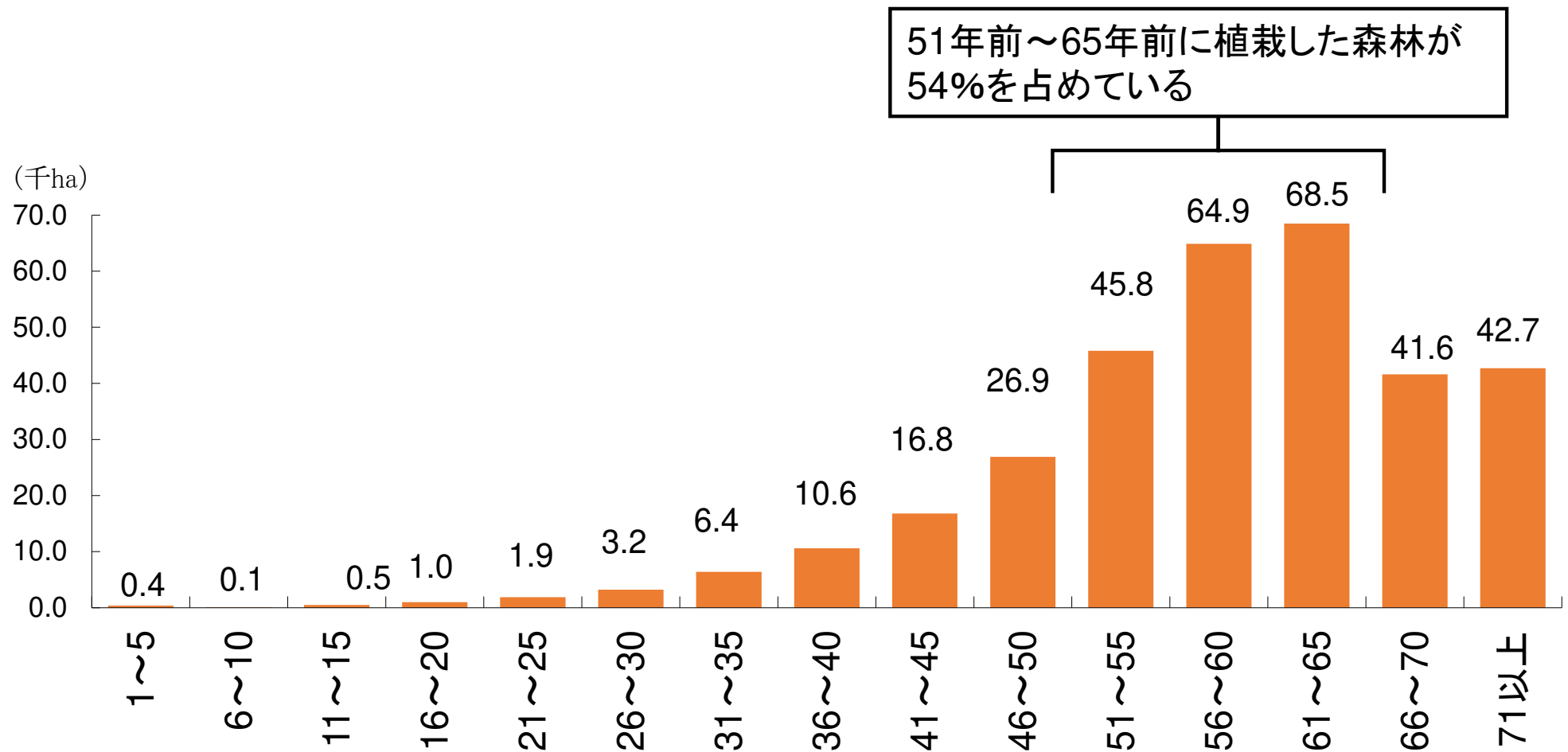
【図4 森林のサイクル】



出典: 林野庁 森林資源現況調査(H29.3.31現在)を基に林務部作成

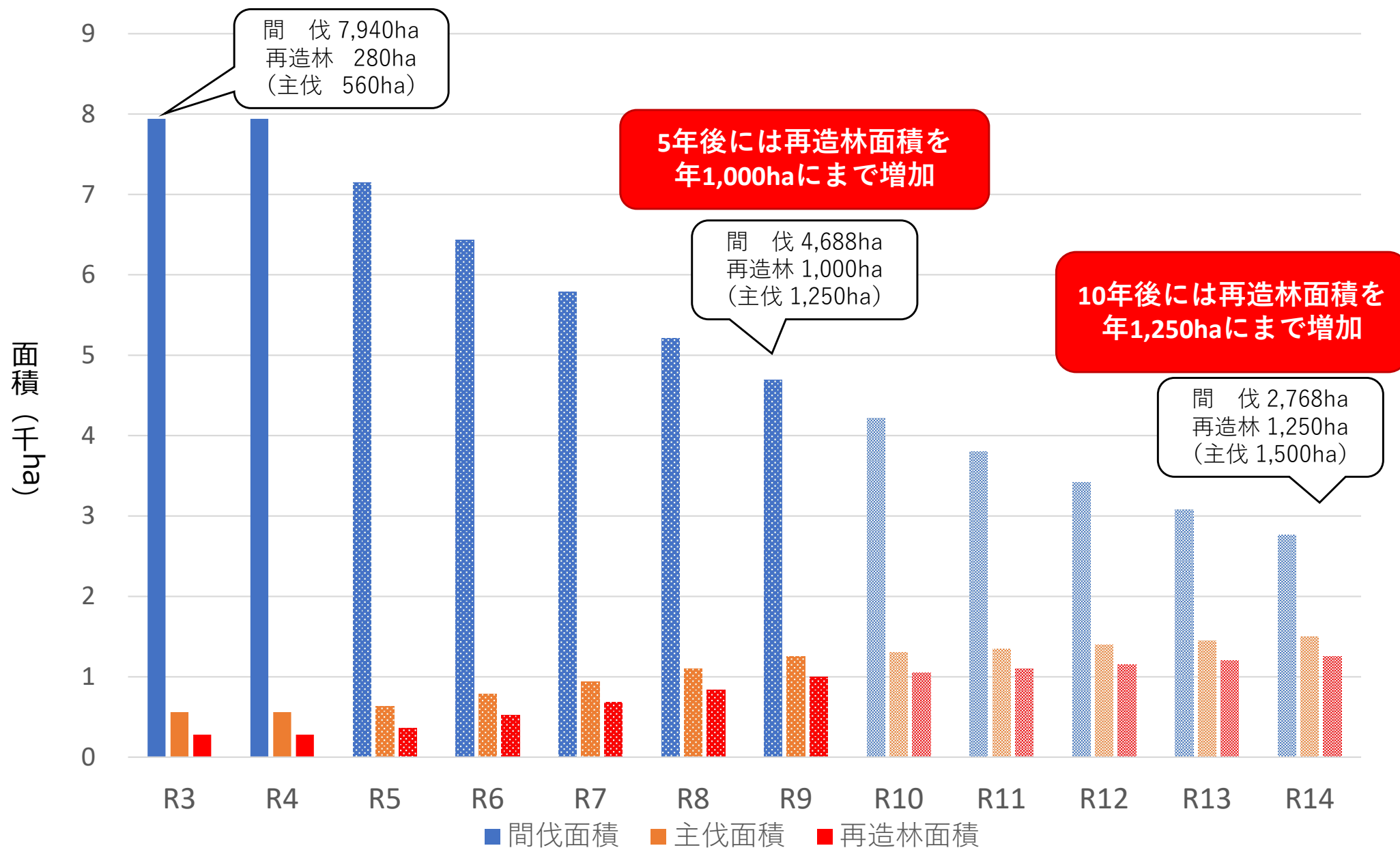
再造林の加速化

成熟した森林が中心となっており、利活用の推進が重要



再造林の加速化

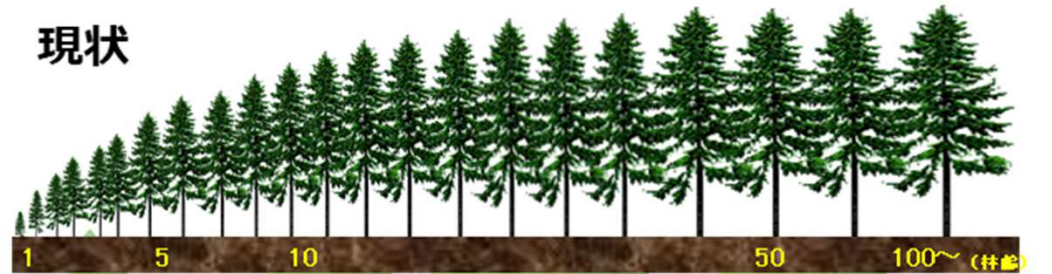
今後の再造林面積等の推移見込み



再造林の加速化

➤ 森林税を活用し、5年間で2,900haの再造林等を支援

現状



森林の適切な更新

再造林は費用や、森林が確実に更新するのかわからないなど不安でいっぱい



木材の行先は？

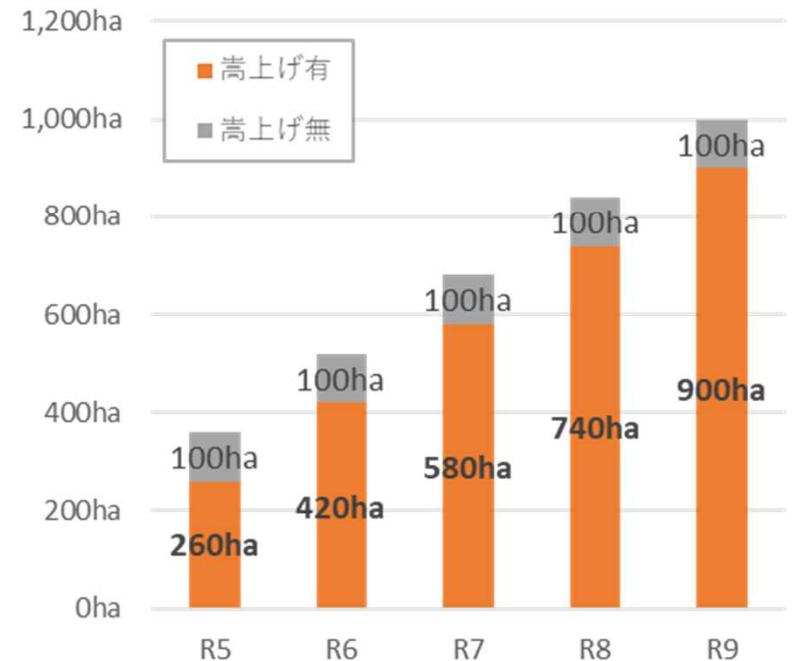
森林税の活用

①再造林や下刈りは労働強度が高く主伐・再造林が進まない要因の一つ

②森林所有者にとって主伐後の再造林は、金銭面など不安が多い

③伐採された木材が安定した量、価格で取引される仕組みも重要

今後5年間の再造林面積のイメージ



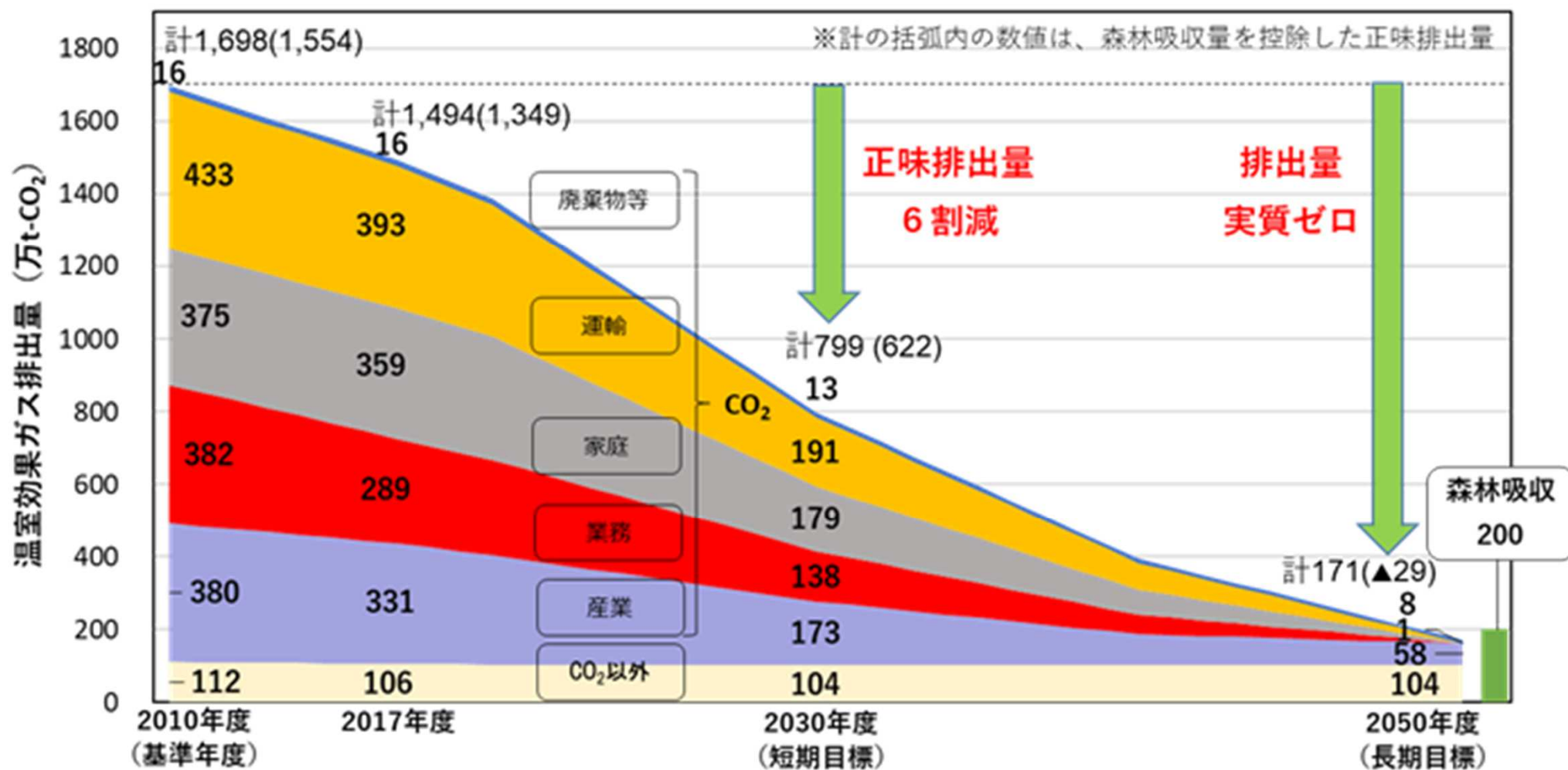
※ 「高上げ無」は、治山事業や松くい虫被害木伐倒後の再造林

主伐・再造林を加速化

再造林の加速化

2050ゼロカーボン達成のシナリオ

再エネ転換が難しい産業用高温炉などのCO₂や、CO₂以外の温室効果ガス（171万t-CO₂）を上回る森林吸収量（200万t-CO₂）を確保し、排出量実質ゼロを目指す。

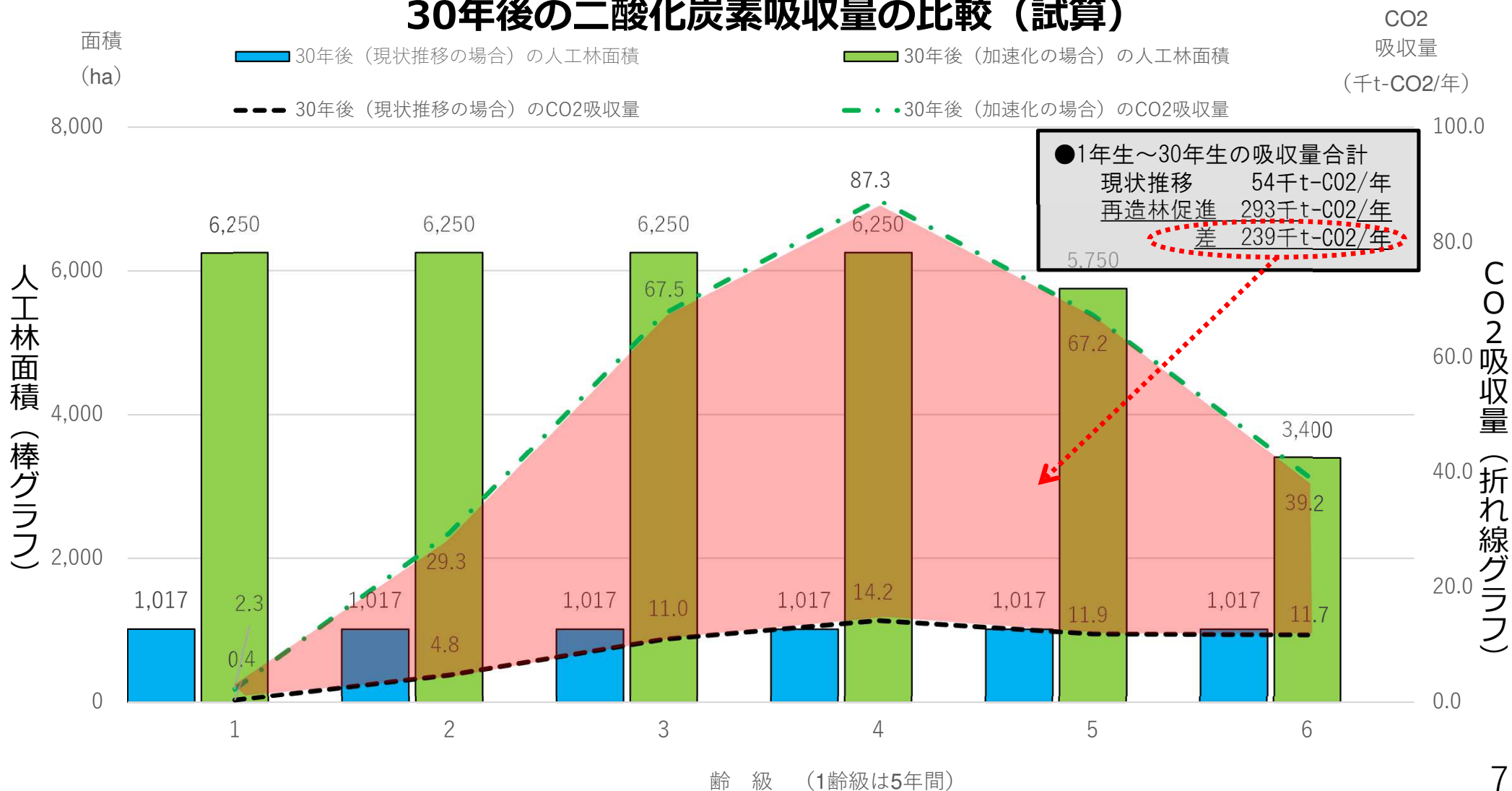


テーマ なぜ、県産木材がいいのか？どうしたら使われるのか？

再造林の加速化

- 再造林を促進した場合と現状のペースのままの場合を比較すると30年後の「植林後30年生以下の森林」におけるCO2吸収量は24万t-CO2/年の差（図の赤色部分）と試算される。

30年後の二酸化炭素吸収量の比較（試算）



テーマ なぜ、県産木材がいいのか？どうしたら使われるのか？

- ◆ **施主（又は工務店・設計者／小学生・中学生・高校生）に響くキーワード**
例. SDG s、地産地消、健康、C O 2削減 等
- ◆ **行動に移すために効果的な周知方法**
例. 動画、体験、セミナー、授業 等
- ◆ **アンケート結果を踏まえ、県産木材がどうしたら使われるか**



今後、県産木材活用推進部会で検討